



ソフトウェア
取扱説明書

デジタルプロセッサ

DP-0206

DACsys2000 - Two U

Version 2.00

このたびは、TOAデジタルプロセッサをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

TOA 株式会社

目次

1. インストールをする前に	3
2. インストール方法	3
3. プログラムの起動	5
4. メイン画面	6
5. メニューの概要説明	7
6. ユニットの操作	10
7. ユニットビュー	15
8. メモリビュー	17
9. フロービュー	18
10. コンテンツビュー	20
11. レスポンスビュー	33
12. パターンメモリ	35
13. レベルモニタビュー	36
14. ミュートオールウィンドウ	37
15. 通信	38
16. ユーザレベル	40
17. 禁止設定	42
18. 印刷	44
19. エクスポート	45
20. DQ-C01 設定	46
21. 補足	53
22. 仕様一覧	55

1. インストールをする前に

DACsys2000 - TwoU は、DP-0206 専用の設定ソフトウェアです。

この設定ソフトウェアは、Microsoft Windows 95、Windows 98、Windows ME、Windows NT Ver.4.0、Windows 2000 の OS 上で動作します。

2. インストール方法

インストールを開始する前に、すべてのアプリケーションを終了しておきます。

インストールは、次の手順で行います。

1. TOAの商品データダウンロードサイト(<http://www.toa-products.com/>) からインストールプログラム(DAC2KJ200-C.exe)をダウンロードし、デスクトップに保存する。
2. インストールプログラムのアイコンをダブルクリックする。
次のウィンドウが表示されます。



3. **次へ(N) >** ボタンをクリックします。

次のウィンドウが表示されます。



4. 必要に応じてインストール先のフォルダーを変更し、**次へ(N) >** ボタンをクリックする。
インストールが開始します。



5. インストールが完了したら、**完了** ボタンをクリックする。

3. プログラムの起動

インストールが完了したプログラムを起動するには以下の二つの方法があります。

1. デスクトップ上にショートカットを作成し、このアイコンから起動する。

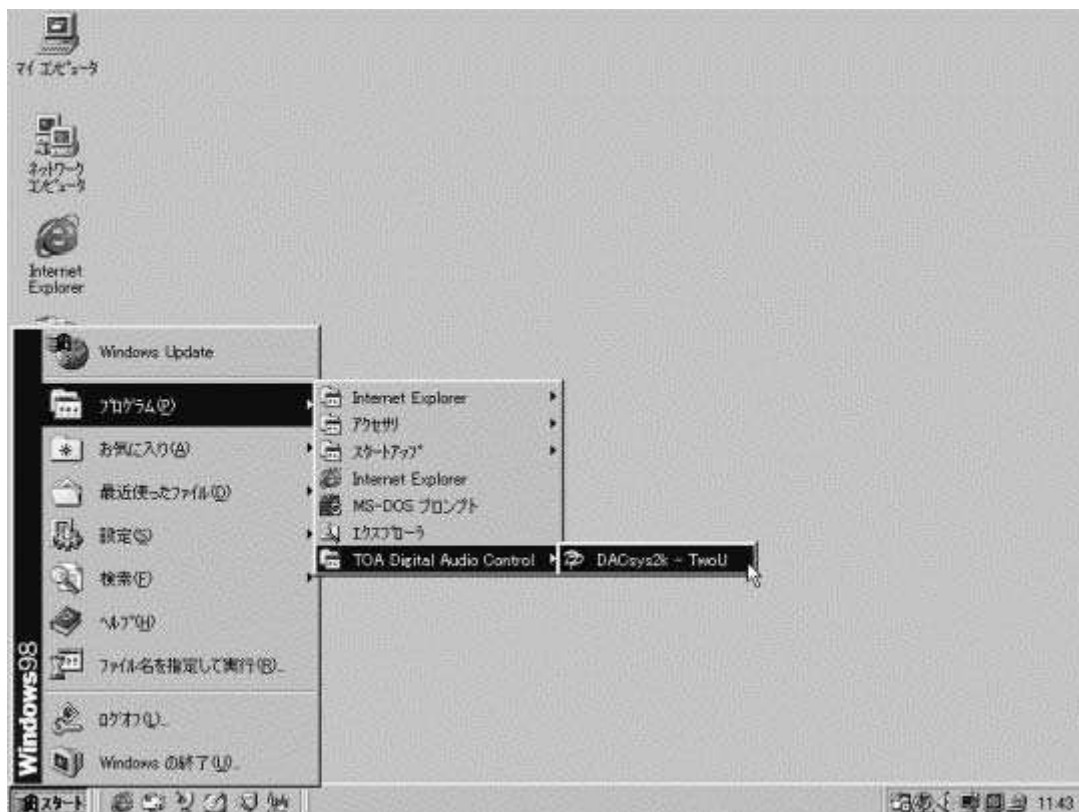
インストール終了直後に表示される、「DACsys2k - TwoU」のアイコンを、Ctrl キーを押しながらマウスでデスクトップにドラッグ(コピー)します。これで、デスクトップ上にショートカットが作成されます。このアイコンをダブルクリックして起動します。



DACsys2k -
TwoU

2. スタートボタンから起動する。

画面上の **スタート** をクリックし、[プログラム(P) → TOA Digital Audio Control → DACsys2k - TwoU]と選択し、起動します。



4. メイン画面

プログラムを起動した直後は以下の画面が表示されます。



5. メニューの概要説明

ファイル(F)

新規作成(N)...	: 新たにデータファイルを作成(設定)します。
開く(O)...	: 既存のデータファイルを呼び出します。
上書き保存(S)	: 作業中のファイルをディスクに保存します。
名前をつけて保存(A)...	: 作業中のファイルを別名でディスクに保存します。
エクスポート(E)...	: 作業中のファイルのデータを Microsoft Excel のデータとして出力します。Microsoft Excel がインストールされていないと、このメニューは表示されません。
印刷設定(U)...	: 余白を変更します。
印刷(P)...	: 作業中のファイルを印刷します。
印刷プレビュー(V)...	: 作業中のファイルを印刷時のイメージで表示します。
アプリケーションの終了(X)	: プログラムを終了します。

編集(E)

元に戻す(U)	: 直前に行った変更を元に戻します。
やり直し(R)	: 直前に元に戻された動作を再びやり直します。
切り取り(T)	: 指定したボックスの設定値をクリップボードにコピーした後に、設定値を初期化します。
コピー(C)	: 指定したボックスの設定値をクリップボードにコピーします。
貼り付け(P)	: 指定したボックスに、クリップボードのデータを貼り付けます。
初期値(L)	: ボックスの設定値を初期化します。
ボックス位置変更(S)	: Gain と C/G のボックス位置を入れ替えます。
フィルタボックス種類(F)	
→ PEQ	: ボックスを PEQ に変更し、初期値に設定します。
→ GEQ	: ボックスを GEQ に変更し、初期値に設定します。
→ Filter	: ボックスを Filter に変更します。
スプリット(I)	
→ PEQ+Filter	: Filter を PEQ と Filter に分割します。
→ GEQ+Filter	: Filter を GEQ と Filter に分割します。
→ Filter+Filter	: Filter を Filter と Filter に分割します。
マージ(M)	: 一つの Filter に結合します。
グルーピング設定(G)...	: ボックスのグルーピング設定を行います。
グルーピング解除(R)	: ボックスのグルーピング設定を解除します。

ボックスの書き込み保護(W)

- Off : Box の禁止設定をしません。
- Low : オペレータによる Box のパラメータ変更を禁止します。
- Mid : オペレータによる Box の変更をすべて禁止します。
- High : 管理者による Box 内部のパラメータ変更及びオペレータによる全ての変更を禁止します。

表示(V)

- ツールバー(T) : ツールバーの表示/非表示を切り換えます。
- ステータスバー(S) : ステータスバーの表示/非表示を切り換えます。
- ユニットビュー(U) : ユニット一覧の表示/非表示を切り換えます。
- コンテンツビュー(C) : コンテンツビューの表示/非表示を切り換えます。
- レスポンスビュー(R) : レスポンスビュー(P.33 参照)の表示/非表示を切り換えます。

メモリビュー(M)

- 表示/非表示(S) : メモリビューの表示/非表示を切り換えます。
- フローティング(F) : メモリビューをフローティング表示します。
- ドッキング(D) : メモリビューをドッキング表示します。

ミュートオール(A)

- 表示/非表示(S) : ミュートオールウィンドウ(P.37 参照)の表示/非表示を切り換えます。
- フローティング(F) : ミュートオールウィンドウをフローティング表示します。
- ドッキング(D) : ミュートオールウィンドウをドッキング表示します。

レベルモニタビュー(L)

: レベルモニタビューの表示/非表示を切り換えます。

ユニット(U)

- 新規作成(N)... : ユニットを新規に作成します。
- 削除(D) : ユニットをデータファイルから削除します。
- 入出力数の変更(R)... : 既に作成済みのユニットの入出力数を変更します。
- クロスオーバの変更(X)
 - コンビネーション(C)... : クロスオーバのコンビネーションを変更します。
 - スロープ(S)... : クロスオーバのスロープを変更します。
- 名称設定(M)... : ユニット本体および、入出力の名称を変更します。
- テンプレートとして保存(T)
 - ユニットのテンプレート(U)... : ユニットの設定をテンプレートとして保存します。
 - クロスオーバのテンプレート(X)... : クロスオーバの設定テンプレートとして保存します。

メモリ(M)

チェンジ(C)

→ Memory1～16

: 16 個のパターンメモリから呼び出します。

ストア(S)

→ Memory1～16

: 状態を 16 個のメモリのいずれかに書き込みます。

名称設定(M)...

: メモリ名称を変更します。

通信(R)

接続(C)...

: PC とユニットを接続して、オンライン状態にします。

切断(D)

: PC とユニットを切り離して、オフライン状態にします。オフライン状態では、PC で設定を変更してもユニットの設定は変化しません。

バルク送信(T)...

: 現在開いているファイルのデータを強制送信します。

バルク受信(R)...

: ユニットのデータを受信します。

自動接続する(A)...

: 次回、ファイルを開いたときに自動接続します。

オプション(O)

ユーザレベルと禁止設定(S)...

: ユーザレベルの設定、及び各種操作の禁止設定を行います。

外部制御設定(C)...

: DQ-C01 の設定を行います。

ヘルプ(H)

バージョン情報(A)

: DACsys2000 - TwoU のバージョンを表示します。

6. ユニットの操作

ユニットの作成

1. メニューから、ユニット(U) → 新規作成(N)... を選択すると、ユニット設定 画面が表示されます。

2. 表示された ユニット設定 画面において、最初にユニット名称を入力し、ユニット ID を選択します。
3. 入出力数を、2×6、2×8、2×10、4×6、4×8、6×6 の中から選択します。初期値は 2×6 です。既に用意されているテンプレートファイルから作成する場合は、テンプレートから作成(F) をクリックします。 クリックして下さい と表示されたボタンをクリックした後、ダイアログボックスにてファイルを選択します。

4. **次へ(N) >** をクリックします。クロスオーバ・コンビネーション 画面が表示されます。



5. マウスクリックにより、クロスオーバ・コンビネーションの設定を行います。設定状態は画面右側のウィンドウに表示されます。以下は、6 出力時における 3 ウェイ 2 系統の設定例です。

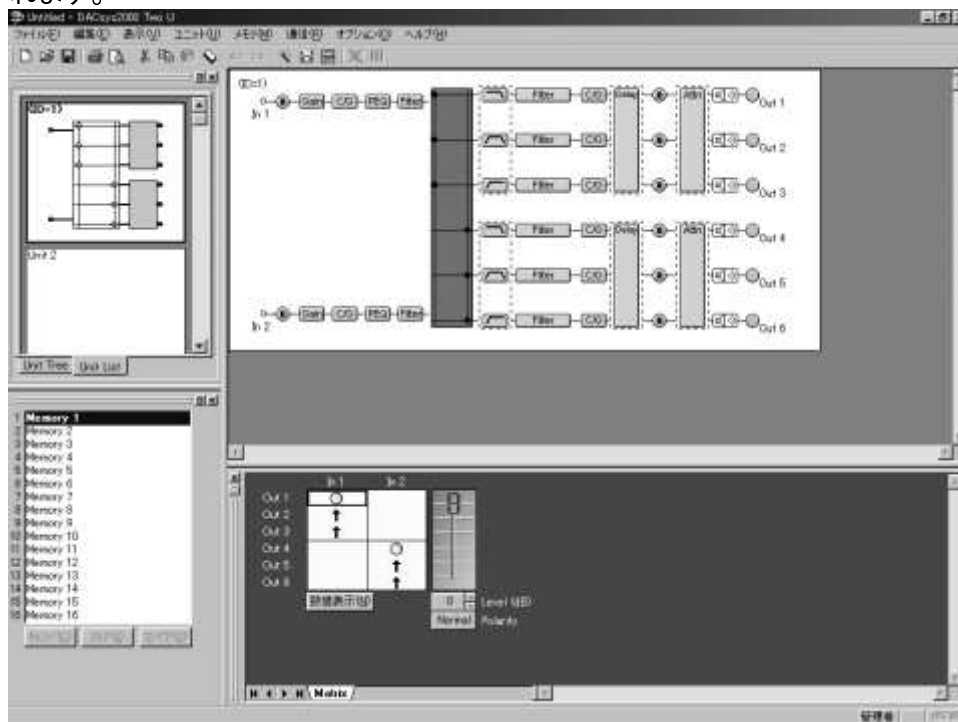


6. **次へ(N) >** をクリックします。クロスオーバー・スロープ 画面が表示されます。



7. マウスクリックにより、クロスオーバー・スロープ 構成の設定を行います。設定状態は画面右側のウィンドウに表示されます。
8. 既に用意されているテンプレートファイルから作成する場合は、対象となるチャンネルのテンプレートのチェックボックスをクリックします。**クリックして下さい** と表示されたボタンをクリックした後、ダイアログボックスにてファイルを選択します。

9. 設定に間違いが無い事を確認して、完了ボタンを押します。下図のようにシグナル・フローが表示されます。



ユニットの削除

ユニットビュー、またはフロービューで削除したいユニットを選択します。

メニューから、ユニット(U) → 削除(D)... を選択すると、確認のダイアログが表示されます。OK ボタンを押すとユニットが削除されます。

ユニットの入出力数変更

既に作成したユニットの入出力数を変更できます。

ユニットビュー、またはフロービューで入出力数を変更したいユニットを選択します。

メニューから、ユニット(U) → 入出力数の変更(R)... を選択すると、ユニット設定 画面が表示されます。以降は、ユニットの作成と同じ手順です。

クロスオーバ・コンビネーションの変更

既に作成したユニットのクロスオーバ・コンビネーションを変更できます。

ユニットビュー、またはフロービューでクロスオーバ・コンビネーションを変更したいユニットを選択します。

メニューから、ユニット(U) → クロスオーバの変更(X) → コンビネーション(C)... を選択すると、クロスオーバ・コンビネーション 画面が表示されます。

以降は、ユニットの作成と同じ手順です。

クロスオーバー・スロープの変更

既に作成したユニットのクロスオーバー・スロープを変更できます。

ユニットビュー、またはフロービューでクロスオーバー・スロープを変更したいユニットを選択します。

メニューから、ユニット(U) → クロスオーバーの変更(X) → スロープ(S)... を選択すると、クロスオーバー・スロープ 画面が表示されます。

以降は、ユニットの作成と同じ手順です。

ユニットの名称変更

ユニットビュー、またはフロービューで名称変更したいユニットを選択します。

メニューから、ユニット(U) → 名称設定(M)... を選択すると、名称設定のダイアログが表示されます。

ユニットをテンプレートとして保存

ユニットビュー、またはフロービューでテンプレートとして保存したいユニットを選択します。

メニューから、ユニット(U) → テンプレートとして保存(T) → ユニットのテンプレート(U)... を選択すると、ファイル保存のダイアログが表示されます。

クロスオーバー設定をテンプレートとして保存

フロービューでテンプレートとして保存したいクロスオーバーボックスを選択します。

メニューから、ユニット(U) → テンプレートとして保存(T) → クロスオーバーのテンプレート(X)... を選択すると、ファイル保存のダイアログが表示されます。

7. ユニットビュー

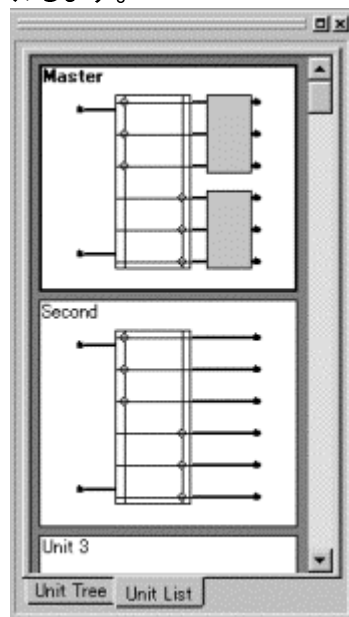
ここでは、ユニットビューについて説明します。

ユニットを一覧で表示します。最大 30 台までのユニットを一覧表示できます。

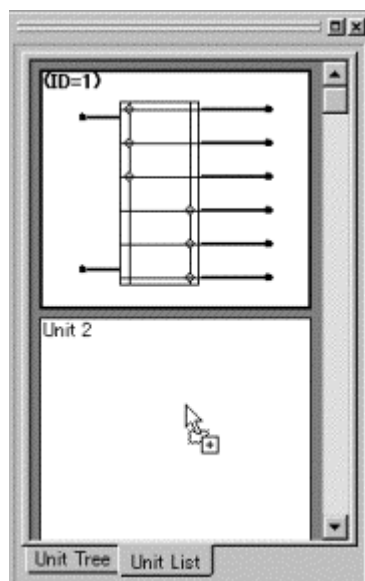
表示方式はリスト表示とツリー表示の2つがあります。表示は、下のタブで切り換えます。

リスト表示

ユニットの信号処理イメージを縮小して最大 30 台まで表示します。ユニット名称、入出力数、マトリクス設定、クロスオーバ・コンビネーションを簡易表示します。作成済みのユニットをクリックすると、フロービューが連動してスクロールします。



リスト表示にて、作成済みのユニットを空のユニットにドラッグ&ドロップする事により、ユニットのコピーができます。



ツリー表示

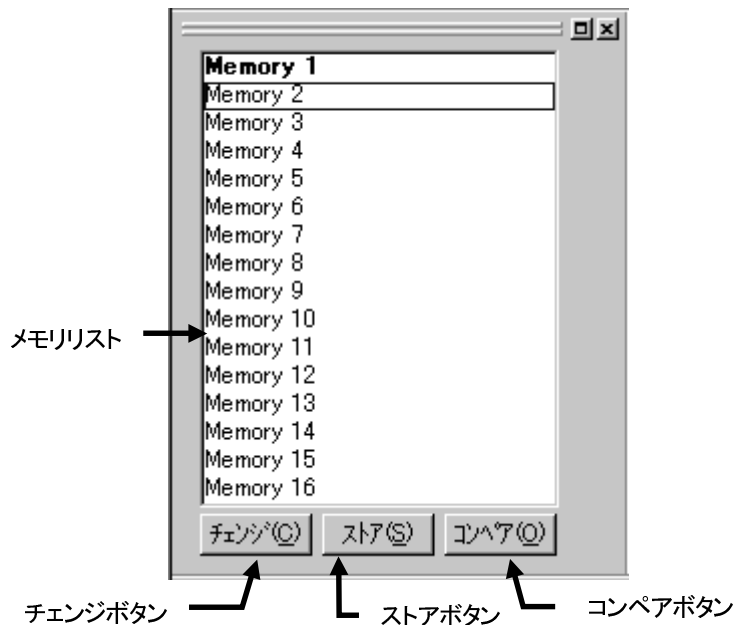
ユニットを少ない表示面積で最大 30 台まで一覧表示します。ユニット名称をツリー表示します。作成済みのユニットをクリックすると、フロービューが連動してスクロールします。



8. メモリビュー

ここでは、メモリビューについて説明します。

メモリ名称および、現在選択中のメモリナンバーを表示します。また、メモリの呼び出し、メモリへの書き込み、メモリのコンペア(比較)ができます。



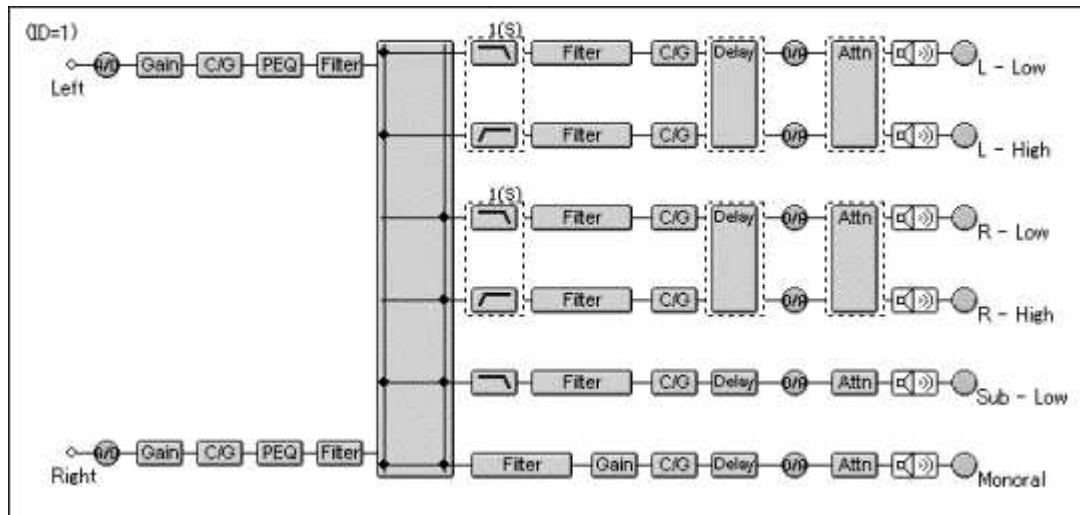
- ・メモリリストで、太字表示されているものが現在のメモリナンバーです。
- ・メモリを呼び出すには、変更先のメモリナンバー位置をクリックしてから、チェンジボタンを押します。
- ・メモリに書き込むには、記憶先のメモリナンバー位置をクリックしてから、ストアボタンを押します。
- ・メモリコンペアをするときは、比較したいメモリナンバー位置をクリックしてから、コンペアボタンを押します。選択位置のパターンメモリに一時的に切り換わります。エディット前の状態と比較するときは、太字表示されているメモリナンバーをクリックしてからコンペアボタンを押します。もう一度コンペアボタンを押すと、元の状態に戻ります。
- ・メモリビューは、ドッキング表示とフローティング表示を切り換え可能です。

9. フロービュー

ここでは、フロービューについて説明します。

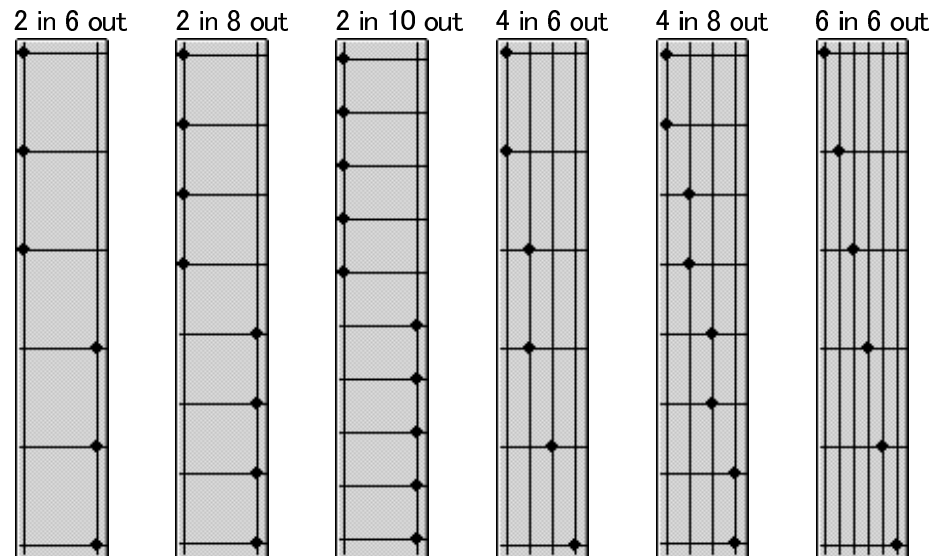
フロービューでは、ユニットの信号処理機能を示したボックスと、入出力を結ぶ直線からなるシグナルフローで表される、ユニットの信号処理イメージを表示します。

以下は、2 in 6 out のユニットを表示しています。



それぞれのボックスの信号処理機能は以下の通りです。

マトリクス(Matrix)



クロスオーバー(Xover)

-  ← ローパスフィルタ
-  ← ハイパスフィルタ
-  ← バンドパスフィルタ(ハイパスフィルタ+ローパスフィルタ)

その他のボックス

	← ゲイン
	← コンプレッサ/ノイズゲート
	← パラメトリックイコライザ
	← グラフィックイコライザ
	← マルチバンドフィルタ
	← デイレイ
	← アツテネータ
	← ミュート(オフ)
	← ミュート(オン)

ミュートの設定

ミュートは、出力の  ボックスをダブルクリックすると、ボックス内に×印が表示されて、その系統はミュートされます。  → 

再度ダブルクリックするとミュートは解除されます。  → 

シグナルインジケータ

-  ← A/D、D/A 変換直後の信号レベルを表示します。
-  ← 出力レベルを表示します。

赤色 : 信号レベルが 18 dB*以上

緑色 : 信号レベルが -48 dB*以上、18 dB*未満

灰色 : 信号レベルが -48 dB*未満

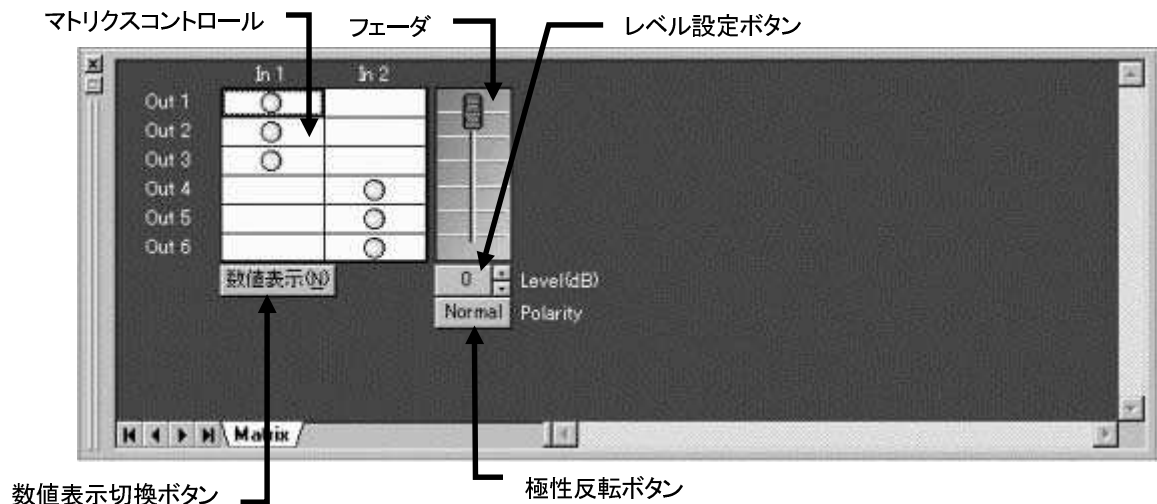
* 0 dB = 0.775 V

10. コンテンツビュー

ここでは、各コンテンツビューについて説明します。

コンテンツビューを表示するには、フロービューの各ボックスをクリックします。

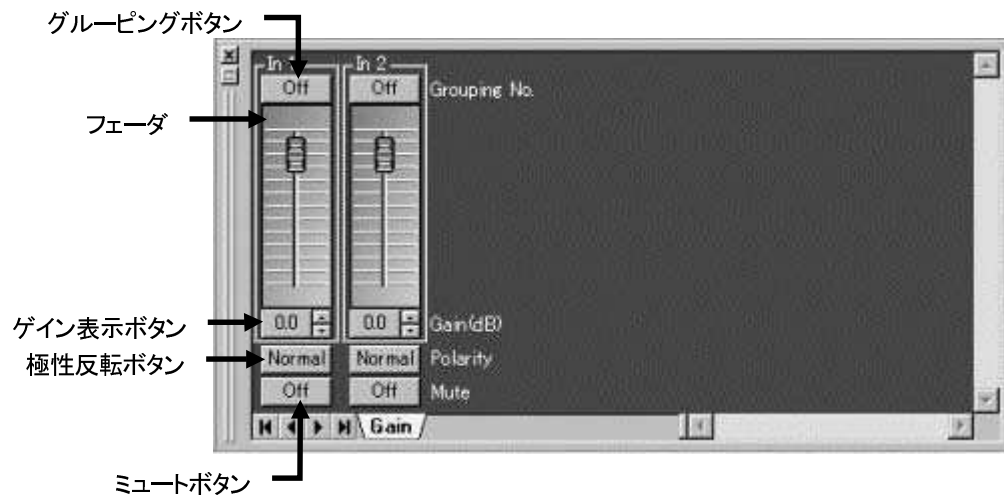
Matrix ビュー



- ・マトリクスコントロールにおける ☐ 印が、入出力のルーティングを表します。
- ・マトリクスコントロールをダブルクリックすることで、オン/オフの切替ができます。
- ・マトリクスコントロール上の黒い太線枠は、選択されているマトリクスポイントを表します。
- ・フェーダを上下させることで、選択されているマトリクスポイントにおけるレベルを変更できます。
- ・レベル設定ボタンには、選択されているマトリクスポイントにおけるレベルが数値表示されます。このボタンを押すことで、数値による直接入力が可能です。右横のスピンボタンで 1 dB 単位のアップ/ダウンもできます。
- ・極性反転ボタンには、選択されているマトリクスポイントにおける極性状態が表示されます。このボタンを押すことで、極性反転を行うことができます。
- ・数値表示切替ボタンを押すことで、各マトリクスポイントにおけるレベル設定が数値表示されます。

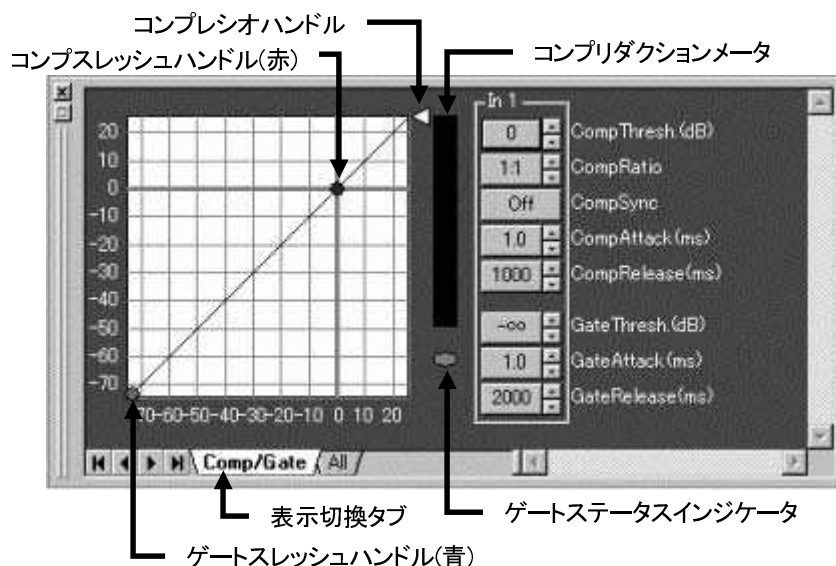
	In 1	In 2
Out 1	0dB	0dB
Out 2	0dB	0dB
Out 3	0dB	0dB
Out 4	0dB	0dB
Out 5	0dB	0dB
Out 6	0dB	0dB
	数値表示(N)	

Gain ビュー

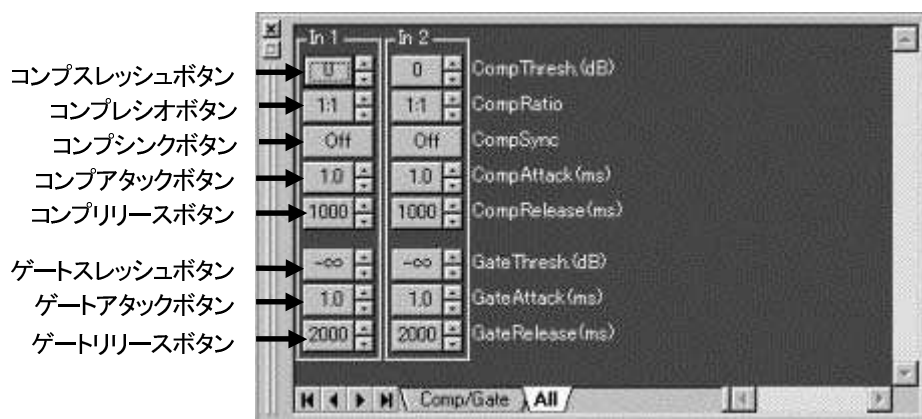


- ・フェーダを上下させることで、各チャンネルにおけるレベルを変更できます。
- ・グルーピングボタンには、各チャンネルごとに設定されているグルーピング番号が表示されます。このボタンを押すことで、各チャンネルのグルーピング設定が可能です。グルーピングされているチャンネルのフェーダを上下させたときは、同じグループに属している他のフェーダも同様に動きます。
- ・ゲイン表示ボタンには、各チャンネルにおけるレベルが数値表示されます。このボタンを押すことで、数値による直接入力が可能です。右横のスピンドットで 0.5 dB 単位のアップ/ダウンもできます。
- ・極性反転ボタンには、各チャンネルにおける極性状態が表示されます。このボタンを押すことで、極性反転を行うことができます。
- ・ミュートボタンには、各チャンネルにおけるミュート機能のオン/オフ状態が表示されます。このボタンを押すことで、オン/オフの変更を行うことができます。

Comp/Gate ビュー



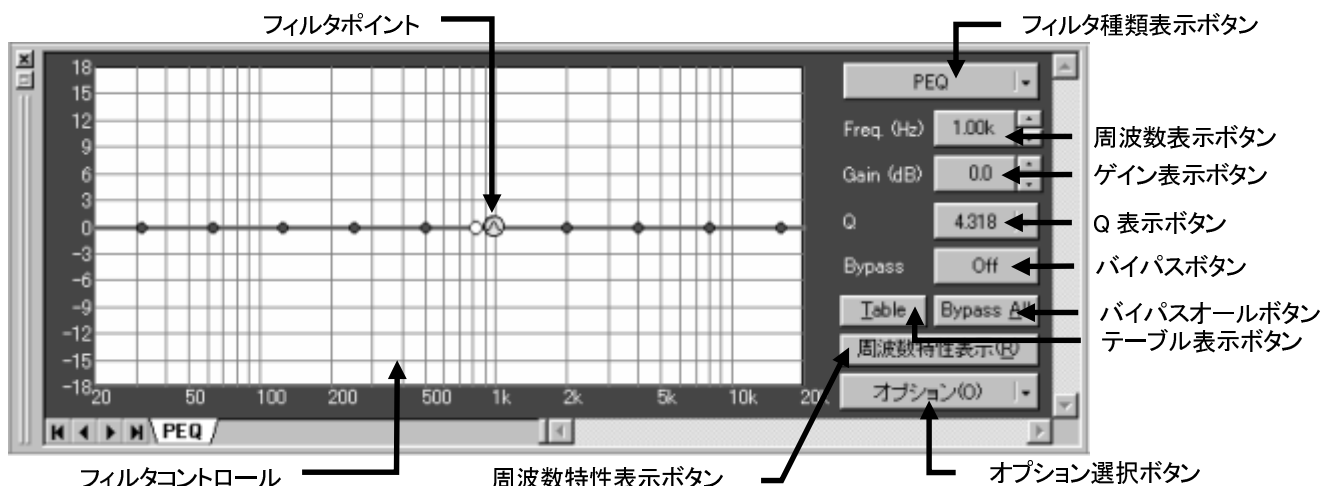
- ・コンプレッショハンドルを、クリックして斜め線上にドラッグすることで、コンプレッサスレッシュヨルドレベル(CompThresh.)を変更できます。
- ・レシオハンドルをクリックして上下にドラッグすることで、コンプレッサレシオ(CompRatio.)を変更できます。
- ・ゲートスレッシュハンドルを、クリックして斜め線上にドラッグすることで、ノイズゲートスレッシュヨルドレベル(GateThresh.)を変更できます。
- ・コンプレッサの効き具合は、コンプリダクションメータに黄色のバーグラフで表示されます。
- ・ノイズゲートが動作すると、ゲートステータスインジケータが青色に点灯します。
- ・表示切換タブの All をクリックすると、ユニット全チャンネルの設定画面が現れます。



- ・コンプレッショボタンには、各チャンネルにおけるコンプレッサスレッシュヨルドレベル(CompThresh.)が数値表示されます。このボタンを押すことで、数値による直接入力が可能です。右横のスピンドルボタンで 1 dB 単位のアップ/ダウンもできます。

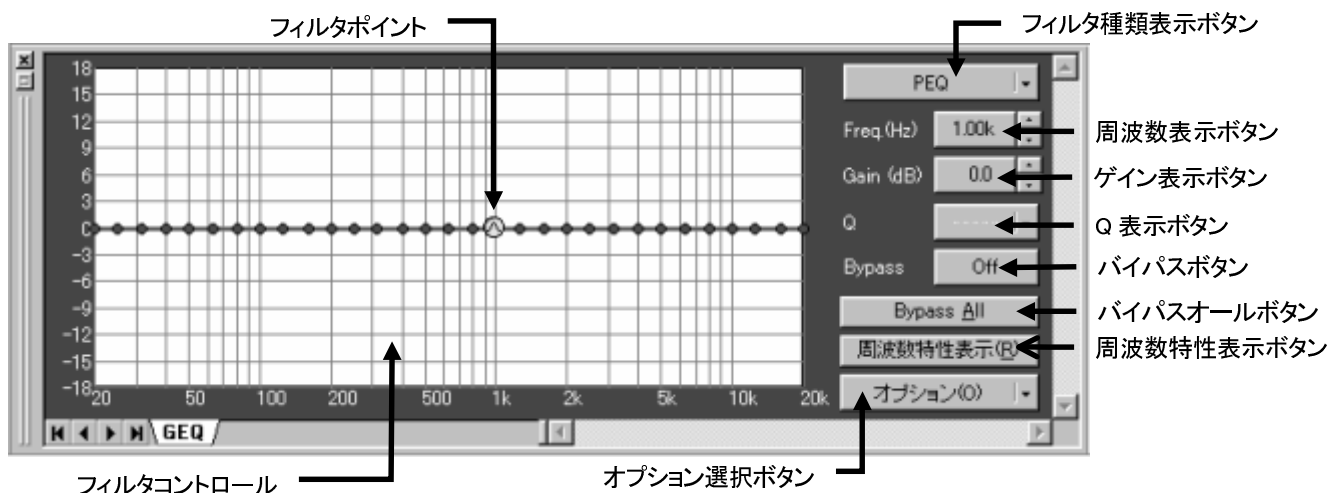
- コンプレシオボタンには、各チャンネルにおけるコンプレッサレシオ(CompRatio)が数値表示されます。このボタンを押すことで、ドロップダウンメニューから選択入力が可能です。右横のスピンボタンでの変更もできます。
- コンプシンクボタンには、各チャンネルにおけるコンプレッサシンク(CompSync)が表示されます。このボタンを押すことで、ドロップダウンメニューから選択入力が可能です。
- コンプアタックボタンには、各チャンネルにおけるコンプレッサアタックタイム(CompAttack)が数値表示されます。このボタンを押すことで、ドロップダウンメニューから選択入力が可能です。右横のスピンボタンでの変更もできます。
- コンプリリースボタンには、各チャンネルにおけるコンプレッサリリースタイム(CompRelease)が数値表示されます。このボタンを押すことで、ドロップダウンメニューから選択入力が可能です。右横のスピンボタンでの変更もできます。
- ゲートスレッシュボタンには、各チャンネルにおけるゲートスレッシュレベル(GateThresh.)が数値表示されます。このボタンを押すことで、数値による直接入力が可能です。右横のスピンボタンで 1 dB 単位のアップ/ダウンもできます。
- ゲートアタックボタンには、各チャンネルにおけるゲートアタックタイム(GateAttack)が数値表示されます。このボタンを押すことで、ドロップダウンメニューから選択入力が可能です。右横のスピンボタンでの変更もできます。
- ゲートリリースボタンには、各チャンネルにおけるゲートリリースタイム(GateRelease)が数値表示されます。このボタンを押すことで、ドロップダウンメニューから選択入力が可能です。右横のスピンボタンでの変更もできます。

PEQ ビュー



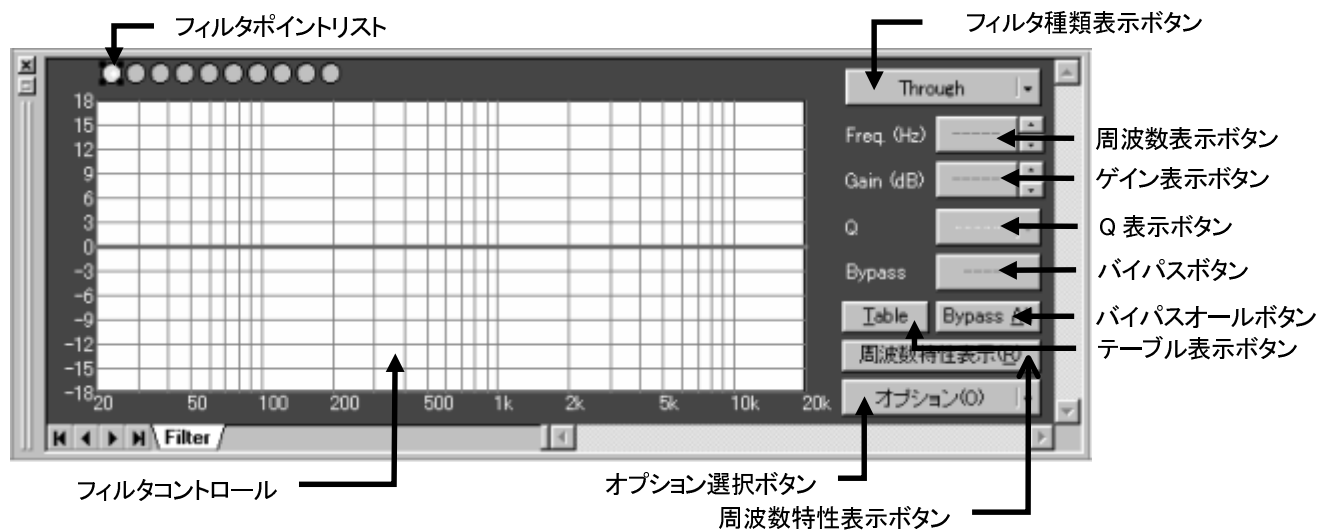
- ・フィルタコントロール上の丸印が操作可能なフィルタポイントです。
- ・黄色い丸は、選択されているフィルタポイントを表します。
- - パラメトリック(PEQ)
- - ハイパスフィルタ(HPF)
- - ローパスフィルタ(LPF)
- ・フィルタポイントをクリックして上下左右にドラッグする事により、選択されているフィルタポイントの周波数およびゲインの変更が可能です。
- ・フィルタポイントの右横に白丸が表示されている場合、その白丸をクリックして上下にドラッグする事により、選択されているフィルタポイントの Q 値の変更が可能です。
- ・フィルタ種類表示ボタンには、選択されているフィルタポイントのフィルタ種類が表示されます。このボタンを押すことで、ドロップダウンメニューから選択入力が可能です。
- ・周波数表示ボタンには、選択されているフィルタポイントの周波数が表示されます。このボタンを押すことで、数値による直接入力が可能です。右横のスピンボタンで 1/24oct(最小単位に変更可)単位のアップ/ダウンもできます。
- ・ゲイン表示ボタンには、選択されているフィルタポイントのゲインが表示されます。このボタンを押すことで、数値による直接入力が可能です。右横のスピンボタンで 0.5 dB(0.1 dB に変更可)単位のアップ/ダウンもできます。
- ・Q 表示ボタンには、選択されているフィルタポイントの Q 値が表示されます。このボタンを押すことで、ドロップダウンメニューから選択入力が可能です。
- ・バイパスボタンには、選択されているフィルタポイントのバイパス機能オン/オフ状態が表示されます。このボタンを押すことで、オン/オフの変更を行うことができます。
- ・バイパスオールボタンには、フィルタコントロール上における全フィルタポイントのバイパス機能オン/オフ状態が表示されます。このボタンを押すことで、オン/オフの変更を行うことができます。
- ・テーブル表示ボタンを押すと、フィルタコントロールをテーブル形式で表示します。
- ・周波数特性表示ボタンは、レスポンスビュー(P.33 参照)の表示/非表示を切り換えます。
- ・オプション選択ボタンで、特性グラフのスケールの変更、Q の表示方法の切り換え、および高い分解能(周波数、Gain)の設定ができます。

GEQ ビュー



- ・フィルタコントロール上の丸印が操作可能なフィルタポイントです。
- ・黄色い丸は、選択されているフィルタポイントを表します。
- - パラメトリック(PEQ)
- - ハイパスフィルタ(HPF)
- - ローパスフィルタ(LPF)
- ・フィルタポイントをクリックして上下左右にドラッグする事により、選択されているフィルタポイントの周波数およびゲインの変更が可能です。
- ・フィルタポイントの右横に白丸が表示されている場合、その白丸をクリックして上下にドラッグする事により、選択されているフィルタポイントの Q 値の変更が可能です。
- ・フィルタ種類表示ボタンには、選択されているフィルタポイントのフィルタ種類が表示されます。このボタンを押すことで、ドロップダウンメニューから選択入力が可能です。
- ・周波数表示ボタンには、選択されているフィルタポイントの周波数が表示されます。
- ・ゲイン表示ボタンには、選択されているフィルタポイントのゲインが表示されます。このボタンを押すことで、数値による直接入力が可能です。右横のスピンボタンで 0.5 dB(0.1 dB に変更可)単位のアップ/ダウンもできます。
- ・Q 表示ボタンには、選択されているフィルタポイントの Q 値が表示されます。このボタンを押すことで、ドロップダウンメニューから選択入力が可能です。
- ・バイパスボタンには、選択されているフィルタポイントのバイパス機能オン/オフ状態が表示されます。このボタンを押すことで、オン/オフの変更を行うことができます。
- ・バイパスオールボタンには、フィルタコントロール上における全フィルタポイントのバイパス機能オン/オフ状態が表示されます。このボタンを押すことで、オン/オフの変更を行うことができます。
- ・周波数特性表示ボタンは、レスポンスビュー(P.33 参照)の表示/非表示を切り換えます。
- ・オプション選択ボタンで、特性グラフのスケールの変更、Q の表示方法の切り換え、および高い分解能(周波数、Gain)の設定ができます。

Filter ビュー



- ・フィルタポイントは、フィルタポイントリストから必要に応じて選択します。フィルタポイントリスト上で任意のポイントを右クリックすると、以下のようなポップアップメニューが表示されます。



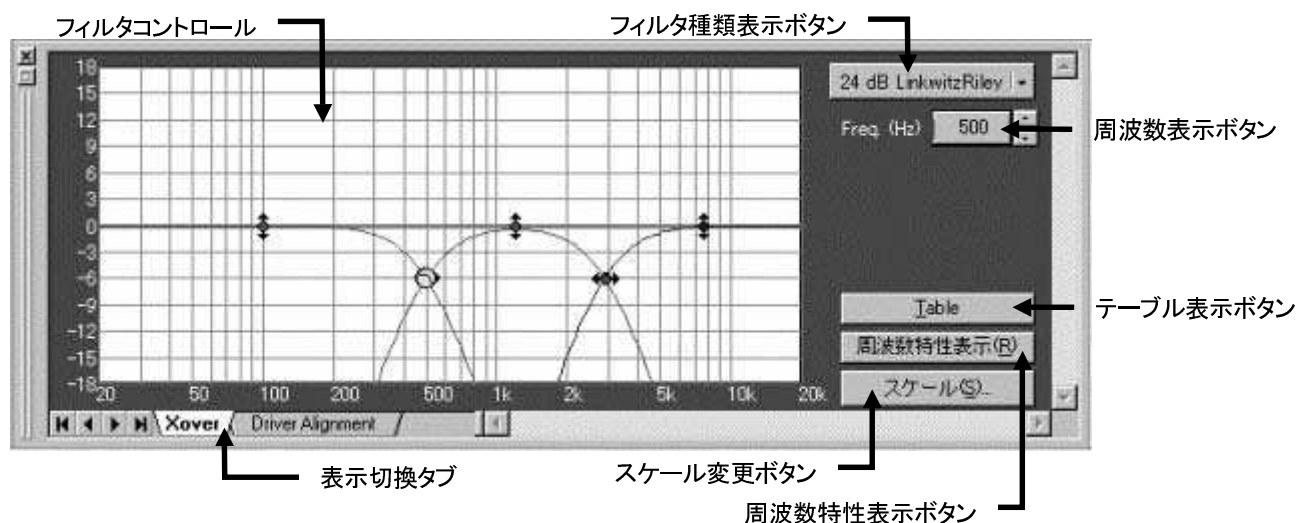
- ・”Through”以外が選択されると、フィルタコントロール中に丸印が表示されます。

- ・黄色い丸は、選択されているフィルタポイントを表します。

- Ⓐ - パラメトリック(PEQ)
- Ⓑ - ハイパスフィルタ(HPF)
- Ⓒ - ローパスフィルタ(LPF)
- Ⓓ - ハイシェルビングフィルタ(High Shelving)
- Ⓔ - ローシェルビングフィルタ(Low Shelving)
- Ⓕ - オールパスフィルタ(All Pass)
- Ⓖ - ノッチフィルタ(Notch)
- Ⓗ - ホーンイコライザ(Horn EQ)

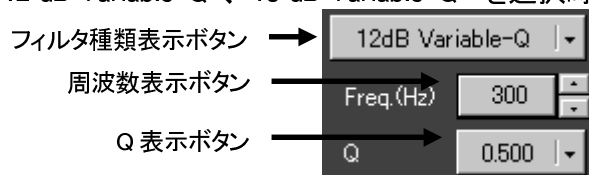
- ・フィルタポイントをクリックして上下左右にドラッグする事により、選択されているフィルタポイントの周波数およびゲインの変更が可能です。
- ・フィルタポイントの右横に白丸が表示されている場合、その白丸をクリックして上下にドラッグする事により、選択されているフィルタポイントの Q 値の変更が可能です。
- ・フィルタ種類表示ボタンには、選択されているフィルタポイントのフィルタ種類が表示されます。このボタンを押すことで、ドロップダウンメニューから選択入力が可能です。
- ・周波数表示ボタンには、選択されているフィルタポイントの周波数が表示されます。このボタンを押すことで、数値による直接入力が可能です。右横のスピンボタンで 1/24oct(最小単位に変更可)単位のアップ/ダウンもできます。
- ・ゲイン表示ボタンには、選択されているフィルタポイントのゲインが表示されます。このボタンを押すことで、数値による直接入力が可能です。右横のスピンボタンで 0.5 dB(0.1 dB に変更可)単位のアップ/ダウンもできます。
- ・Q 表示ボタンには、選択されているフィルタポイントの Q 値が表示されます。このボタンを押すことで、ドロップダウンメニューから選択入力が可能です。
- ・バイパスボタンには、選択されているフィルタポイントのバイパス機能オン/オフ状態が表示されます。このボタンを押すことで、オン/オフの変更を行うことができます。
- ・バイパスオールボタンには、フィルタコントロール上における全フィルタポイントのバイパス機能オン/オフ状態が表示されます。このボタンを押すことで、オン/オフの変更を行うことができます。
- ・テーブル表示ボタンを押すと、フィルタコントロールをテーブル形式で表示します。
- ・周波数特性表示ボタンは、レスポンスビュー(P.33 参照)の表示/非表示を切り換えます。
- ・オプション選択ボタンで、特性グラフのスケールの変更、Q の表示方法の切り換え、および高い分解能(周波数、Gain)の設定ができます。

Xover ビュー

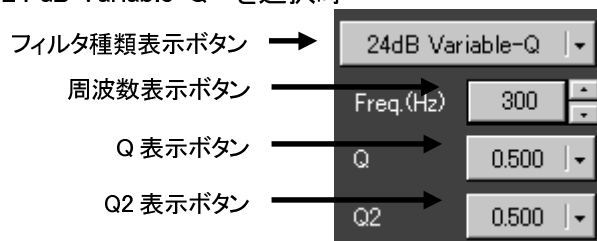


- ・フィルタコントロール上の丸印が操作可能なフィルタポイントです。
- ・黄色い丸は、選択されているフィルタポイントを表します。
- (選択時)、◐ (非選択時) – ハイパスフィルタ
- (選択時)、◐ (非選択時) – ローパスフィルタ
- ① (選択時)、② (非選択時) – ゲインコントロール
- ・ハイパスまたはローパスフィルタポイントをクリックして左右にドラッグする事により、選択されているフィルタポイントのカットオフ周波数の変更が可能です。
- ・ゲインコントロールポイントをクリックして上下にドラッグする事により、選択されているフィルタポイントのゲインの変更が可能です。
- ・フィルタポイントの右横または左横に白丸が表示されている場合、その白丸をクリックして上下にドラッグする事により、選択されているフィルタポイントの Q 値の変更が可能です。
- ・フィルタコントロールの右側の表示は、選択されているフィルタの種類によって変化します。

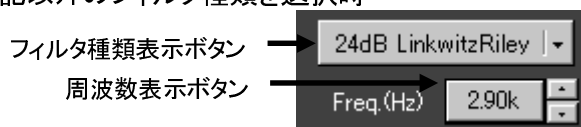
1. "12 dB Variable-Q"、"18 dB Variable-Q" を選択時



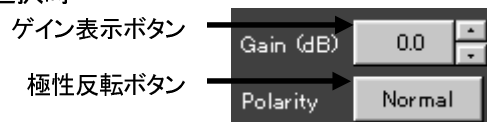
2. "24 dB Variable-Q" を選択時



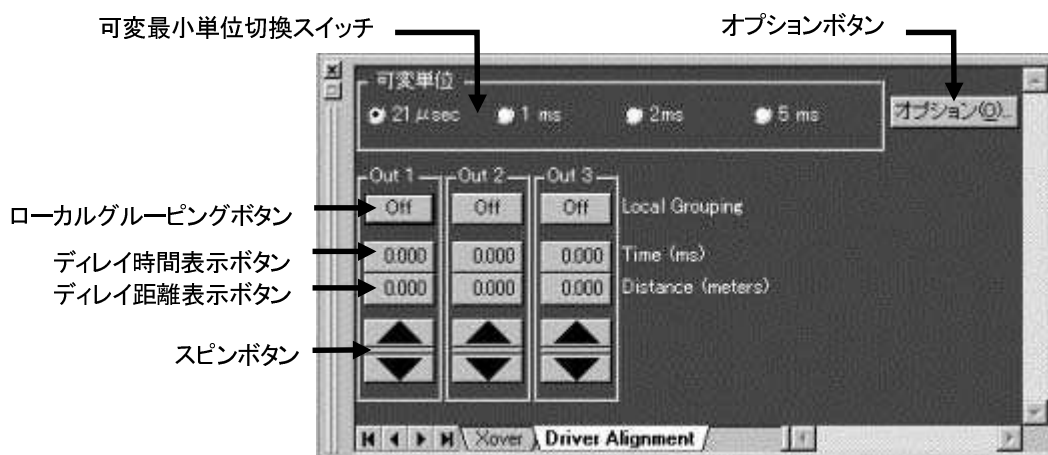
3. 上記以外のフィルタ種類を選択時



4. Gain を選択時

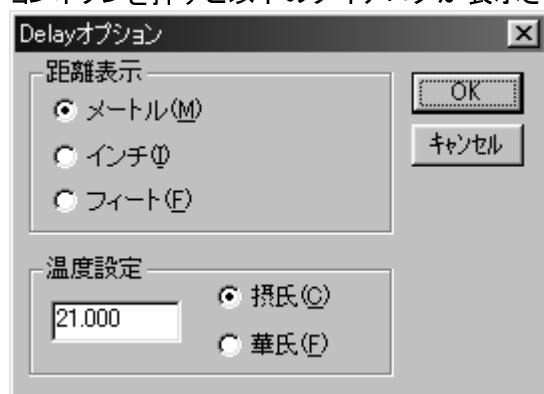


- ・フィルタ種類表示ボタンには、選択されているフィルタポイントのフィルタ種類が表示されます。このボタンを押すことで、ドロップダウンメニューから選択入力が可能です。
- ・周波数表示ボタンには、選択されているフィルタポイントの周波数が表示されます。このボタンを押すことで、数値による直接入力が可能です。右横のスピンボタンで最小単位のアップ/ダウンもできます。
- ・Q、Q2 表示ボタンには、選択されているフィルタポイントの Q 値が表示されます。このボタンを押すことで、ドロップダウンメニューから選択入力が可能です。
- ・ゲイン表示ボタンには、選択されているゲインコントロールポイントのゲインが表示されます。このボタンを押すことで、数値による直接入力が可能です。右横のスピンボタンで 0.5 dB 単位のアップ/ダウンもできます。
- ・極性反転ボタンには、選択されているフィルタポイントの極性状態が表示されます。このボタンを押すことで、極性反転を行うことができます。
- ・テーブル表示ボタンを押すと、フィルタコントロールをテーブル形式で表示します。
- ・周波数特性表示ボタンは、レスポンスビューの表示/非表示を切り換えます。
- ・スケール変更ボタンは、フィルタコントロールのグラフスケールを変更します。
- ・表示切替タブの **Driver Alignment** をクリックすると、Xover ボックス間の時間補正の設定画面が表示されます。



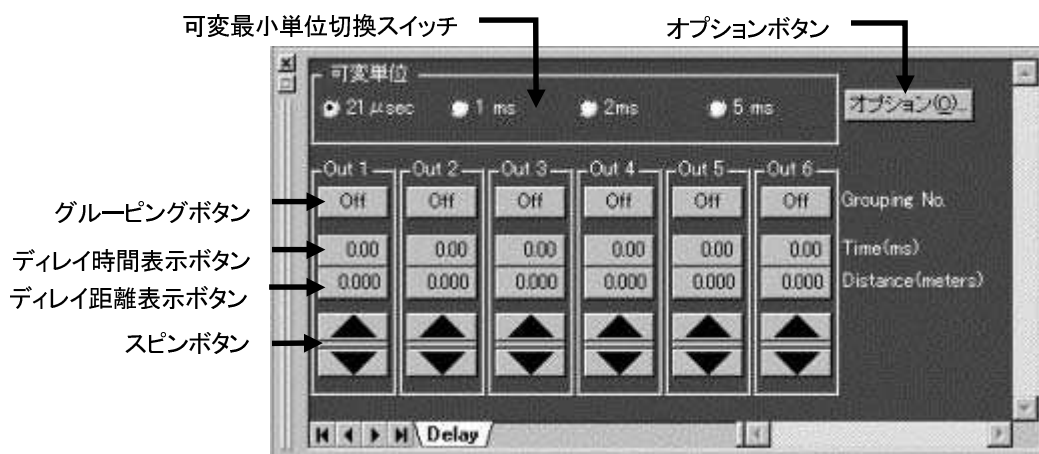
- ・ローカルグルーピングボタンには、各チャンネルごとに設定されているローカルグルーピング番号が表示されます。このボタンを押すことで、各チャンネルのローカルグルーピング設定が可能です。

- ・ディレイ時間表示ボタンには、各チャンネルにおけるディレイ時間(Time)が数値表示されます。このボタンを押すことで、数値による直接入力が可能です。
- ・ディレイ距離表示ボタンには、各チャンネルにおけるディレイ距離(Distance)が数値表示されます。このボタンを押すことで、数値による直接入力が可能です。
- ・スピンボタンにより、ディレイ時間のアップ/ダウンが、可変最小単位ごとに可能です。
- ・可変最小単位切換スイッチにより、スピンボタンで変更できるディレイ時間の最小単位を選択できます。
- ・オプションボタンを押すと以下のダイアログが表示されます。

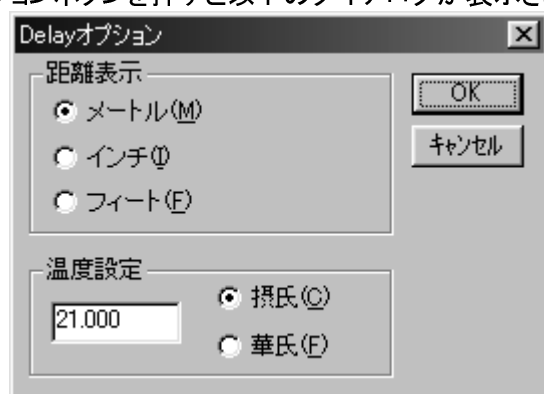


ディレイ距離表示ボタンに表示される距離の単位を、メートル、インチ、フィートから選択できます。
ディレイ距離表示ボタンに表示される距離計算に用いる温度を設定できます。

Delay ビュー

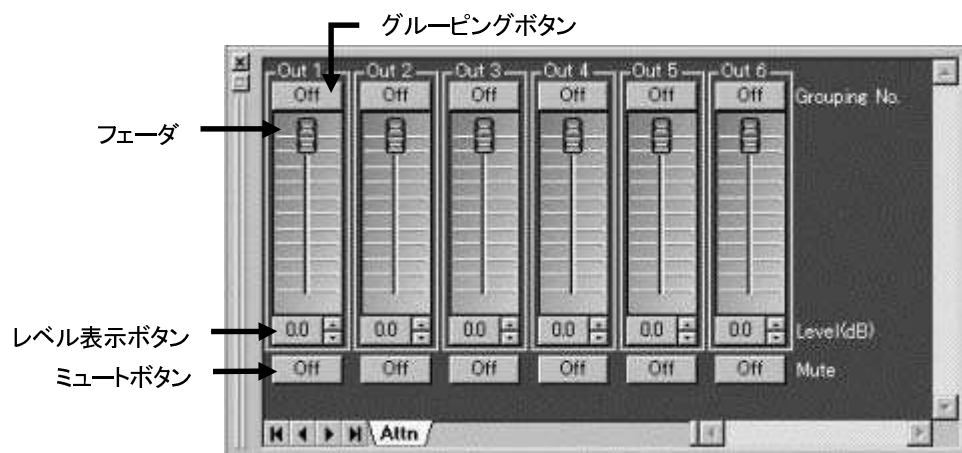


- ・グルーピングボタンには、各チャンネルごとに設定されているグルーピング番号が表示されます。このボタンを押すことで、各チャンネルのグルーピング設定が可能です。
- ・ディレイ時間表示ボタンには、各チャンネルにおけるディレイ時間(Time)が数値表示されます。このボタンを押すことで、数値による直接入力が可能です。
- ・ディレイ距離表示ボタンには、各チャンネルにおけるディレイ距離(Distance)が数値表示されます。このボタンを押すことで、数値による直接入力が可能です。
- ・スピンドットにより、可変最小単位ごとのディレイ時間のアップ/ダウンが可能です。
- ・可変最小単位切換スイッチにより、スピンドットで変更できるディレイ時間の最小単位を選択できます。
- ・オプションボタンを押すと以下のダイアログが表示されます。



ディレイ距離表示ボタンに表示される距離の単位を、メートル、インチ、フィートから選択できます。
ディレイ距離表示ボタンに表示される距離計算に用いる温度を設定できます。

Attn ビュー



- ・グルーピングボタンには、各チャンネルごとに設定されているグルーピング番号が表示されます。このボタンを押すことで、各チャンネルのグルーピング設定が可能です。
- ・フェーダを上下させることで、各チャンネルにおけるレベルを変更できます。
- ・レベル表示ボタンには、各チャンネルにおけるレベルが数値表示されます。このボタンを押すことで、数値による直接入力が可能です。右横のスピンボタンで 0.5 dB 単位のアップ/ダウンもできます。
- ・ミュートボタンには、各チャンネルにおけるミュート機能のオン/オフ状態が表示されます。このボタンを押すことで、オン/オフの変更を行うことができます。

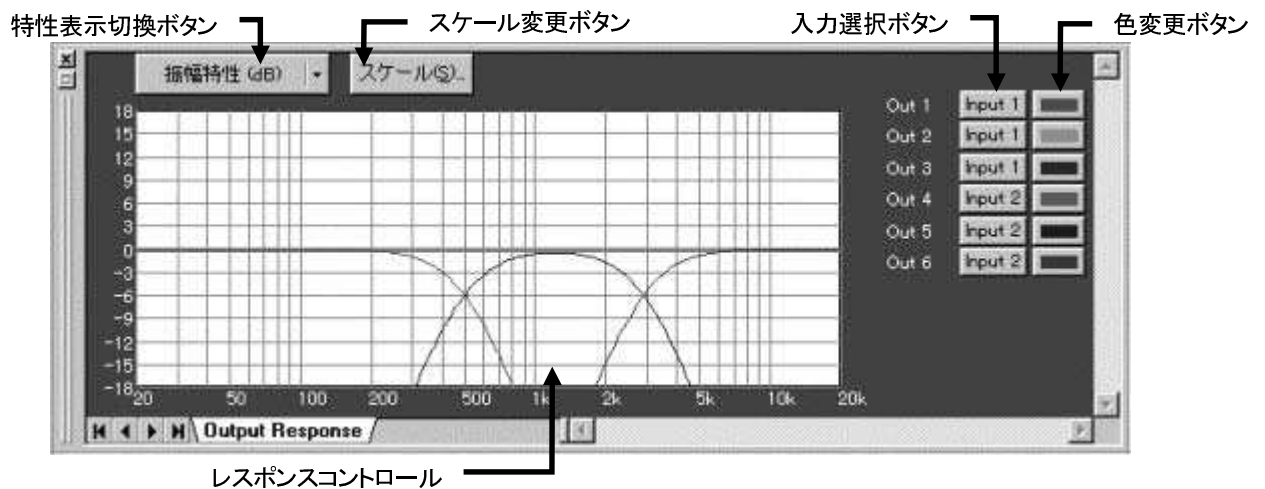
11. レスポンスビュー

ここでは、レスポンスビューについて説明します。

レスポンスビューを表示/非表示させるには、メニューから 表示(V) → レスポンスビュー(R) を選択するか、PEQ/GEQ/Filter/Xover ビューにて 周波数特性表示(R) を押します。

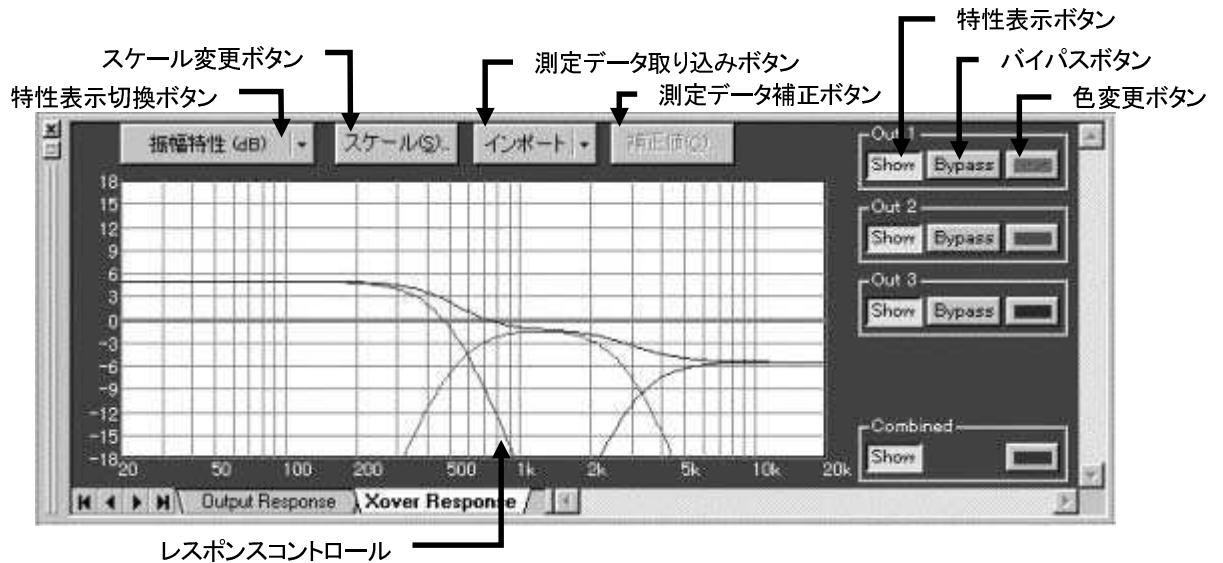
レスポンスビューは Output Response と Xover Response の2種類があります。

1. Output Response



- 入力から出力までの総合特性を表示します。
- 各出力チャンネルに対し、マトリクスにてルーティングされている入力を選択できます。
- 振幅特性、位相特性、群遅延特性の3種類が表示できます。
- 特性表示切換ボタンには、現在表示中の周波数特性の種類が表示されます。このボタンを押すことで、ドロップダウンメニューから選択入力が可能です。振幅特性、位相特性、群遅延特性のうちどれか1つを表示する1画面表示と、これらのうち2つを表示する2画面表示の2種類があります。
- スケール変更ボタンは、レスポンスコントロールのグラフスケールを変更します。
- 入力選択ボタンにより、各出力チャンネルの特性表示のオン/オフ、及び入力チャンネルの選択ができます。
- 色変更ボタンにより、各チャンネルの特性表示曲線の表示色を変更できます。

2. Xover Response



- ・クロスオーバー直後のフィルタまでの特性曲線を表示できます。
- ・各チャンネル単独の特性に加えて、それらを加算した総合特性を表示できます。
- ・振幅特性、位相特性、群遅延特性の3種類が表示できます。
- ・測定データのインポートにより、マルチウェイスピーカにおけるクロスオーバー設定のシミュレーションがおこなえます。
- ・特性表示切換ボタンには、現在表示中の周波数特性の種類が表示されます。このボタンを押すことで、ドロップダウンメニューから選択入力が可能です。振幅特性、位相特性、群遅延特性のうちどれか1つを表示する1画面表示と、これらのうち2つを表示する2画面表示の2種類があります。
- ・スケール変更ボタンは、レスポンスコントロールのグラフスケールを変更します。
- ・測定データのインポートを行うには、測定データ取り込みボタンを押した後に表示されるドロップダウンメニューから対象となるチャンネルを選択して下さい。
- ・測定データ補正ボタンを押すと以下のダイアログが表示されます。

振幅特性を補正するには Amplitude を、位相特性を補正するには Receive Delay を変更して下さい。

- ・特性表示ボタンにより、各チャンネルの特性表示のオン/オフができます。
- ・バイパスボタンにより、各チャンネルの特性を総合特性に加算するかどうかを選択できます。
- ・色変更ボタンにより、各チャンネルの特性表示曲線の表示色を変更できます。

12. パターンメモリ

パターンメモリは 16 あり、自由に呼び出し、書き込みができます。

パターンメモリの呼び出し

メニューから、メモリ(M)→チェンジ(C)→Memory (1～16) を選択します。



パターンメモリの書き込み

メニューから、メモリ(M)→ストア(S)→Memory (1～16) を選択します。



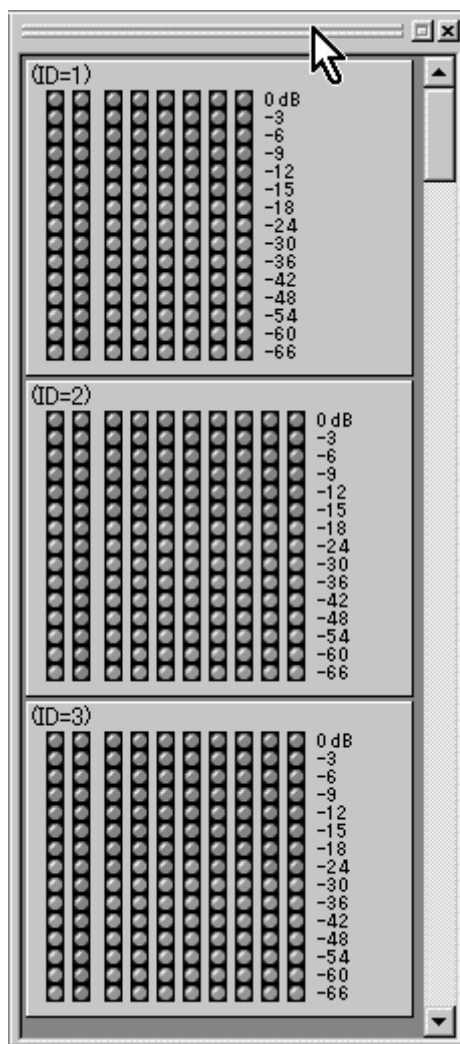
名称変更

メニューから、メモリ(M)→名称設定(M)... を選択します。

13. レベルモニタビュー

ここでは、レベルモニタビューについて説明します。

レベルモニタビューとは、PC とユニットが通信接続中であるときに、ユニットの入出力レベルをモニターすることができるウィンドウです。



14. ミュートオールウィンドウ

ここでは、ミュートオールウィンドウについて説明します。

ミュートオールウィンドウとは、PCとユニットが通信接続中であるときに、全ユニットの出力をミュートすることができるウィンドウです。

ミュートオールウィンドウは、ドッキング表示とフローティング表示を切り換え可能です。



ミュート:ON、全ユニットの出力はミュートされます。



ミュート:OFF、各出力はミュートの設定(P.19 参照)に従います。

15. 通信

本ソフトウェアは、通信ポート、通信速度ともに自動設定を行います。通信速度は、接続先の DP-0206 の設定状態に自動的に合わせます。

・PC との通信を始めるには、メニューから 通信(R) → 接続(C)... を選択します。

・以下のようなダイアログが表示されている間、有効な接続を検索中です。



・PC とユニットにおけるメモリの内容が異なる場合は、以下のようなダイアログが表示されます。



・PC からユニットにデータ転送をする場合は転送方向を PC >> ユニット に、ユニットから PC にデータ転送をする場合は転送方向を ユニット >> PC にします。メモリ毎に異なる転送方向を選択する事もできます。

- ・選択に間違いが無ければ、更新(U)ボタンを押してください。データの転送が始まります。



- ・データの転送終了後、完了(C)ボタンを押してください。



- ・通信を終了するには、メニューから 通信(R) → 切断(D) を選択します。
- ・PC のデータを強制的にユニット側に送信するには、メニューから 通信(R) → バルク送信(T) を選択します。
- ・ユニット側のデータを PC に全て受信するには、メニューから 通信(R) → バルク受信(R) を選択します。

16. ユーザレベル

本ソフトウェアは、以降に説明する禁止設定においてユーザレベルを使い分けることができます。ここではユーザレベルについて説明します。ユーザレベルは以下の2種類です。

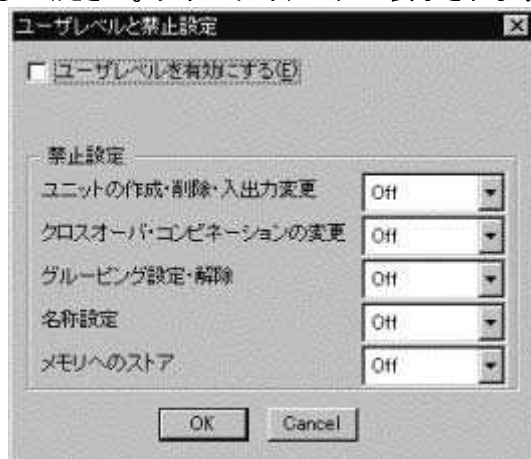
- 管理者

ユーザレベル設定をしていない場合は、ユーザレベルは自動的に管理者になります。また、ログオン画面にて管理者としてログオンした場合は、ユーザレベルは管理者になります。

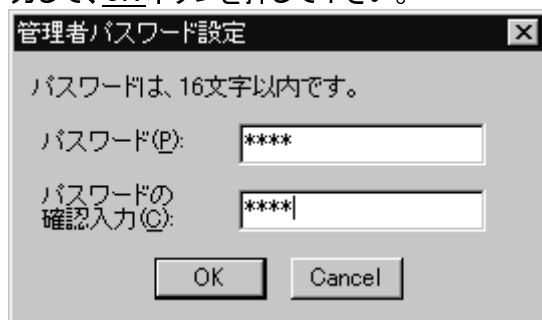
- オペレータ

ログオン画面にて管理者としてログオンしなかった場合は、ユーザレベルはオペレータになります。

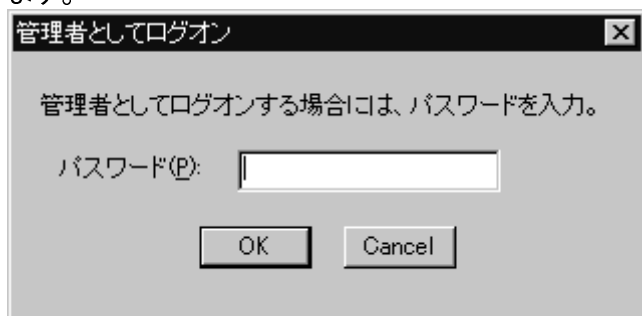
ユーザレベルを有効にするには、メニューから オプション(O) → ユーザレベルと禁止設定(S)... を選択してください。以下のダイアログが表示されます。



ユーザレベルを有効にする(E) チェックボックスをクリックすると、管理者パスワード設定ダイアログが表示されます。パスワード(P)欄及びパスワードの確認入力(C)欄に 16 文字以内のパスワード文字列を入力して、OK ボタンを押して下さい。



ユーザレベルを有効にすると、次回そのファイルを開いたときに、以下のようなログオン画面が表示されます。



管理者としてログオンする場合は、あらかじめ設定したパスワードを入力して OK ボタンを押して下さい。それ以外の方法でログオン画面が閉じられた場合は、オペレータとしてログオンします。ログオンしたユーザレベルは、メイン画面下部ステータスバーの右側に表示されます。

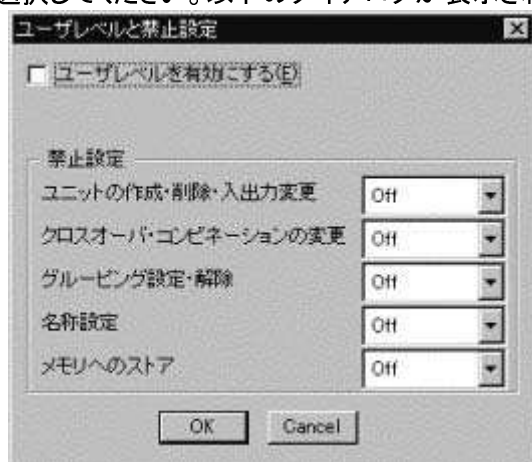


17. 禁止設定

本ソフトウェアは、各種変更操作に対する禁止設定を行うことができます。禁止できる操作は以下の通りです。

1. ユニットの作成・削除・入出力変更
2. クロスオーバ・コンビネーションの変更
3. グループ設定の変更
4. 名称の変更
5. メモリへのストア
6. 各ボックスのパラメータ変更

上の 1～5 までの禁止設定を行うには、メニューからオプション(O) → ユーザレベルと禁止設定(S)... を選択してください。以下のダイアログが表示されます。



それぞれ、"Off"、"Low"、"Mid"、"High" の4段階を設定できます。

Off	全ての変更を許可します
Low	オペレータによる変更を禁止します。禁止設定の変更は可能です。
Mid	オペレータによる全ての変更を禁止します
High	管理者による禁止設定以外の変更を禁止します。



メモリへのストアは、16 のメモリに対し別々の禁止設定を割り当てる事ができます。

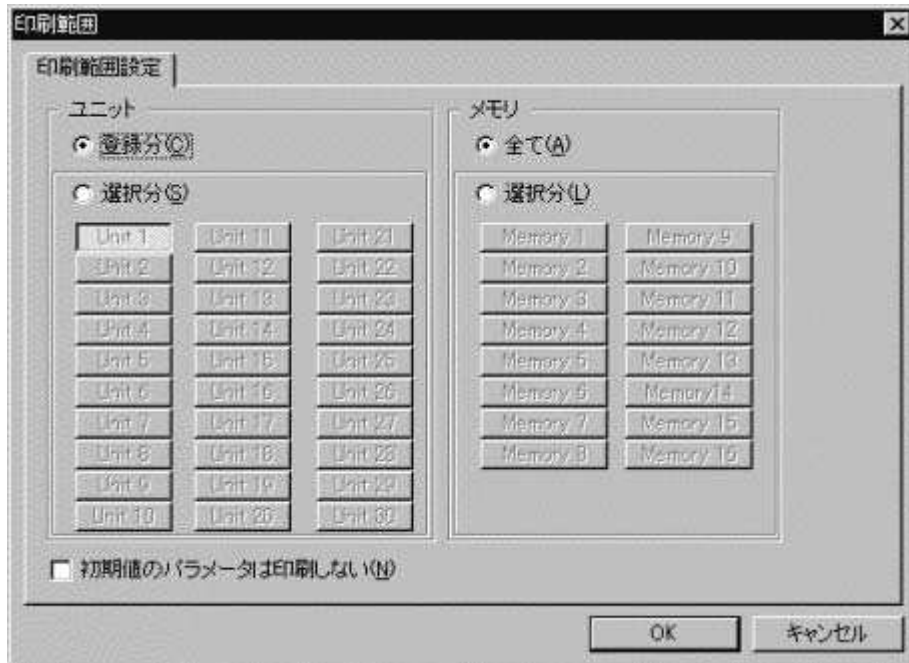


各ボックスのパラメータ変更の禁止設定をするには、フロービューにてボックスを選択した状態で、メニューから 編集(E)→ボックスの書き込み保護(W) を選択します。

18. 印刷

本ソフトウェアは、作業中のファイルのデータを印刷することができます。

印刷をおこなうには、メニューから ファイル(F) → 印刷(P)... を選択して下さい。以下のダイアログが表示されます。



- ・作成済みの全てのユニットの内容を印刷したい場合は、“ユニット”の登録分(C)を選択します。任意のユニットを印刷したい場合は、“ユニット”の選択分(S)を選択し、その下の30個のボタンでユニットを選択します。
- ・16 メモリ全ての内容を印刷したい場合は、“メモリ”の全て(A)を選択します。任意のメモリを印刷したい場合は、“メモリ”の選択分(L)を選択し、その下の16個のボタンでメモリを選択します。
- ・PEQ/GEQ/Filter/Xover の初期値を印刷したくない場合は、初期値のパラメータは印刷しない(N) チェックボックスをクリックします。これにより、印刷に必要な用紙の枚数と印刷時間を節約できます。

19. エクスポート

本ソフトウェアは、作業中のファイルのデータを Microsoft Excel のデータとして出力することができます。

データの出力をおこなうには、メニューから ファイル(F) → エクスポート(E)... を選択してください。

以下のダイアログが表示されます。



- ・作成済みの全てのユニットの内容をエクスポートしたい場合は、“ユニット”の登録分(C)を選択します。任意のユニットをエクスポートしたい場合は、“ユニット”の選択分(S)を選択し、その下の 30 個のボタンでユニットを選択します。
- ・16メモリ全ての内容をエクスポートしたい場合は、“メモリ”の全て(A)を選択します。任意のメモリをエクスポートしたい場合は、“メモリ”の選択分(L)を選択し、その下の 16 個のボタンでメモリを選択します。
- ・PEQ/GEQ/Filter/Xover の初期値をエクスポートしたくない場合は、初期値のパラメータはエクスポートしない(N)チェックボックスをクリックします。これにより、エクスポートにかかる時間を節約できます。

(ご注意)

エクスポートのメニューは、Microsoft Excel がインストールされている PC に限り表示されます。有効な Excel のバージョンは、“Excel 95”、“Excel 97”、“Excel 2000”です。これらいずれかの Excel がインストールされていれば、データファイルを Excel 形式にエクスポートできます。

20. DQ-C01 設定

ここでは、別売のリモートコントロールモジュールDQ-C01の設定について説明します。

1. 概要

DQ-C01を装着すると、DP-0206のメモリ選択、出力音量調節、出力ミュートを外部から制御できます。

DQ-C01の装着のしかたは、DP-0206本体の取扱説明書または、DQ-C01に付属の取扱説明書を参照してください。

DQ-C01の初期設定は、メモリ選択機能になっており、端子1～8がメモリナンバー1～8に設定されています。端子1～8とC端子を短絡すると、メモリナンバー1～8を呼び出せます。

呼び出されるメモリナンバーを変更したい場合や、他の機能に設定したい場合は、下記を参照してください。

2. 設定画面の説明

メニューから オプション(O) → 外部制御設定(C)... を選択すると、以下のダイアログが表示されます。



・モード

DQ-C01に対する状態の与えかたで、ダイレクトとバイナリがあります。

端子1～3はダイレクトモードのみです。

ダイレクト

端子1～8の各端子とC端子を短絡して制御します。

バイナリ

端子4～8のうち任意の端子とC端子に短絡、開放の状態を与えて制御します。

バイナリに設定するときは、端子8から順番に設定してください。

・機能

端子の機能を設定します。

初期設定は、メモリ選択に設定されています。

メモリ … メモリ選択

ボリュームUp/Down … 出力音量調節

ミュート … 出力ミュート

無し … 端子に何の機能も設定されません

・パラメータ

メモリ選択時のメモリナンバー、音量調節時のステップを設定します。

・制御

端子に与える制御の方法です。

機能をミュートに設定したときの制御方法を、メイク/パルスから選択できます。

メイク

各端子とC端子を短絡するとミュートがオン、開放するとオフになります。

パルス

各端子とC端子を短絡する度に、ミュートのオン／オフが反転します。

・チャンネル選択

出力音量調節、出力ミュートをするグループのチャンネルを選択します。別売の出力モジュールを装着して出力を拡張した場合は、それらのチャンネルもグループに選択することができます。

・無効にする

画面右上にある無効にするボタンをクリックすると、DQ-C01からの制御ができなくなります。

無効にする前におこなった制御のうち、メモリナンバーは保持されますが、出力音量調節、出力ミュートはクリアされます。

再度制御ができるようにしたいときは、有効にするボタンをクリックしてください。

●各機能の設定

1. メモリ選択

*ダイレクトでのメモリ選択

端子に 1～16 のうち任意のメモリナンバーを割り当てます。

- ①モードをダイレクトに設定します。
- ②機能をメモリに設定します。
- ③パラメータでメモリナンバー1～16を設定します。



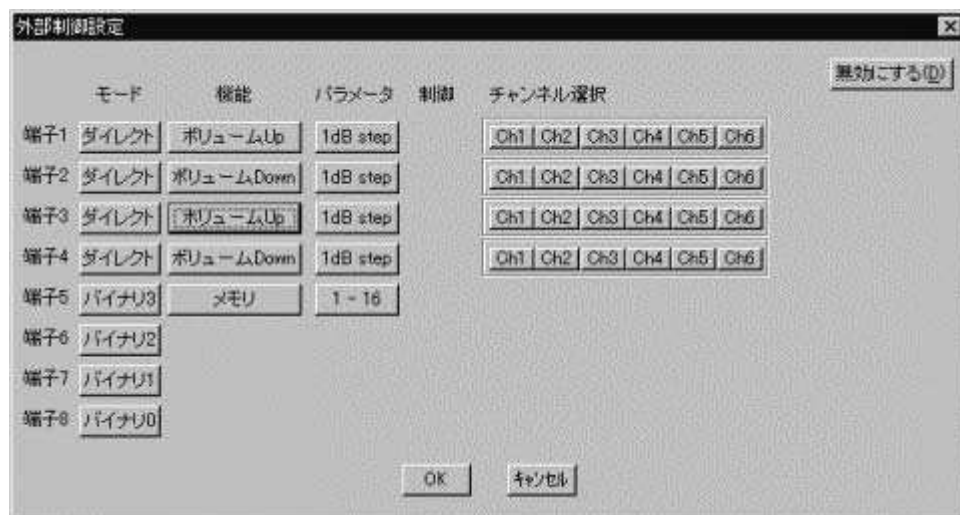
*バイナリでのメモリ選択

1 台の DQ-C01 で 8 メモリ以上を選択したいときなど、機能の端子の数が足りなくなったときは、モードをバイナリにすることで、少ない端子で選択メモリの数を増やせます。

- ①メモリの使用数に応じて、必要な端子のモードをバイナリに設定してください。

使用メモリ数	バイナリに設定する端子
メモリ 1、2	端子 8
メモリ 1～4	端子 7、(8)
メモリ 1～8	端子 6、(7、8)
メモリ 1～16	端子 5、(6、7、8)

- ②機能をメモリに設定します。



(ご注意)

- ・バイナリでメモリ選択をするときは、ダイレクトの端子は音量調節、ミュートのどちらかしか設定できません。
- ・バイナリ 3～0 の端子に与える状態によって、選択されるメモリナンバーはあらかじめ決まっています。

2. 出力音量調節

出力アッテネータに設定されている値に対して、オフセット値を与えます。

(ご注意)

- ・音量調節は、DQ-C01 が実装されているユニットに対してのみおこなえます。
- ・出力チャンネルをグループに設定して、グループ単位で調節をおこないます。
- ・1 つのグループに属しているチャンネルは、ユニットの出力アッテネータ値が同じになるのではなく与えられるオフセット値が同じになります。
- ・2 つのグループに同じチャンネルが属しているときは、そのチャンネルに与えられるオフセット値はそれぞれの値を積算したものになります。
- ・調節の範囲は出力アッテネータに設定可能な値です。(0 dB ~ $-\infty$ dB)
- ・電源を切ると、与えたオフセット値はクリアされます。

* ダイレクトでの音量調節

端子に1グループのボリューム Up または、ボリューム Down の機能を割り当てます。

- ①モードをダイレクトに設定します。
- ②機能をボリュームUp/Downに設定します。
- ③変化のステップを1 dB step/3 dB step/6 dB stepから選択します。
- ④音量調節したいチャンネルを、チャンネル選択でクリックします。



*** バイナリでの音量調節**

1 台の DQ-C01 で 4 グループ以上の音量調節をしたいときなど、端子の数が足りなくなったときはモードをバイナリにすることで、少ない端子で音量調節グループの数を増やせます。

①音量調節の使用グループ数に応じて、必要な端子を**バイナリ**に設定してください。

使用グループ数	バイナリに設定する端子
最大3グループのUp/Down	端子 6、(7、8)
最大7グループのUp/Down	端子 5、(6、7、8)
最大10グループのUp/Down	端子 4、(5、6、7、8)

②機能をボリュームに設定します。

③変化のステップを1 dB step／3 dB step／6 dB stepから選択します。

④グループ設定のボタンをクリックして、各グループのチャンネル選択をおこないます。



(ご注意)

- ・バイナリ 4～0 の端子に与える状態によって、音量が調節されるグループナンバーはあらかじめ決まっています。
- ・バイナリで音量調節をするときは、ダイレクトの端子はメモリ選択、ミュートのどちらかしか設定できません。

3. 出力ミュート

- ①モードをダイレクトに設定します。
- ②機能をミュートにします。
- ③制御方法を、メイク／パルスから選択します。
- ④ミュートしたいチャンネルを、チャンネル選択でクリックします。



(ご注意)

- ・出力ミュートは、DQ-C01 が実装されているユニットに対してのみおこなえます。
- ・設定ソフトウェアでミュートがオンされているチャンネルに対して、DQ-C01 でミュートのオフはできません。
- ・電源を切ると、DQ-C01 でおこなったミュートはオフになります。

●端子機能のまとめ

端子1～8に割り当てられる機能を下表にまとめます。

	すべてダイレクト	バイナリでメモリ選択時	バイナリで音量調節時
端子 1	メモリ選択/音量調節/ミュート	音量調節/ミュート	メモリ選択/ミュート
端子 2	メモリ選択/音量調節/ミュート	音量調節/ミュート	メモリ選択/ミュート
端子 3	メモリ選択/音量調節/ミュート	音量調節/ミュート	メモリ選択/ミュート
端子 4	メモリ選択/音量調節/ミュート	音量調節/ミュート	音量調節最大10グループ
端子 5	メモリ選択/音量調節/ミュート	メモリ選択最大16メモリ	
端子 6	メモリ選択/音量調節/ミュート		
端子 7	メモリ選択/音量調節/ミュート		
端子 8	メモリ選択/音量調節/ミュート		
端子 C	COM	COM	COM

(ご注意) バイナリで使用する機能は、残りのダイレクトでは使用できません。

21. 補足

●ビューの操作方法

各ビュー（フロービューを除く）とミュートオールウィンドウはドッキング表示とフローティング表示が可能です。

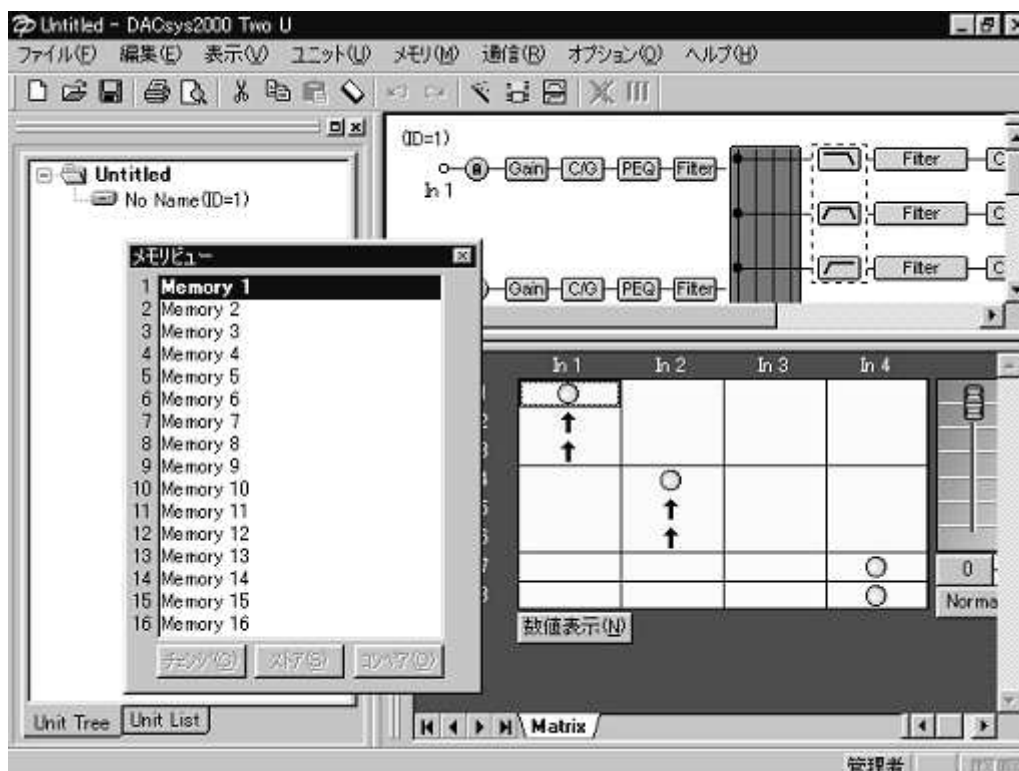
1. メモリビューをドッキング表示した例



・フローティング表示への切り換え

ドッキング表示のときにウィンドウの境界をダブルクリックするとフローティング表示に切り換わります。

2. メモリビューをフローティング表示した例



・ドッキング表示への切り換え

フローティング表示のときにタイトルバーをダブルクリックするとドッキング表示に切り換わります。また、ドッキング表示したい場所にタイトルバーをドラッグ&ドロップすることでもドッキング表示に切り替えます。(メモリビューとミュートオールウィンドウはメニューからでも切り換えが可能です。)

・フローティング表示の調節

フローティング表示のときは移動／サイズの変更が可能です。

移動の場合は、タイトルバーを右クリックしてドロップダウンメニューから「移動(M)」を選択後、タイトルバーをドラッグ&ドロップしてください。

(注意)

ドロップダウンメニューから「移動(M)」を選択せずにタイトルバーをドラッグ&ドロップすると、ドロップした場所によってはその場所でドッキング表示になることがあります。フローティング表示のまま移動したいときは必ず「移動(M)」を選択してください。

サイズ変更の場合は、ウィンドウの境界をドラッグして大きさを調節してください。

22. 仕様一覧

ソフトウェア仕様

対応 OS	: Microsoft Windows 95、98、ME、2000、Windows NT Ver. 4.0 対応
制御台数	: DP-0206 最大 30 ユニット
パターンメモリ	: 16 メモリ

通信仕様

通信方式	: RS-232C
通信速度	: 115,200 bps、(38,400 bps、19,200 bps、9,600 bps)
データビット	: 8 ビット
ストップビット	: 1 ビット
パリティ	: ノンパリティ
接続ケーブル	: RS-232C ストレート結線

機器設定仕様 (DP-0206)

入出力構成	: 2 in 6 out (入出力拡張時 2 in 8 out、2 in 10 out、4 in 6 out、4 in 8 out、 6 in 6 out)
-------	--

信号処理ボックス

ゲイン(Gain)

可変範囲 : +12 dB ~ -60 dB、 $-\infty$ dB 0.5 dB ステップ、極性反転可
 付属機能 : ミュート機能(Input のみ)

コンプレッサ/ノイズゲート(C/G)

コンプスレッシュホールド : -16 dB* ~ +24 dB* 1 dB ステップ * 0 dB = 0.775 V
 コンプレシオ : 1:1、2:1、3:1、4:1、8:1、12:1、20:1、 ∞ :1
 コンプアタックタイム : 0.02、0.1、0.2、0.5、0.7、1.0、1.5、2、3、5、7、10、20、50、70、100 ms
 コンプリリースタイム : 10、20、50、70、100、120、150、200、250、350、700 ms
 1、2、3、5 sec
 コンプシンク機能 : OFF、グループ 1~5
 ゲートスレッシュホールド : -72 dB* ~ -26 dB* 1 dB ステップ * 0 dB = 0.775 V

 ゲートアタックタイム : 0.1、0.5、1.0、2、5、10、50、100 ms
 ゲートリリースタイム : 20、70、120、200、250、350、700、2000、5000 ms

パラメトリックイコライザ(PEQ)

調整バンド数 : 10 バンド

フィルタ種類	中心周波数	ブースト/カット	Q
Peaking (ピーキング)	20 Hz~20 kHz 1/24 オクターブバンド または 連続可変型(有効数字 3 桁)	± 12 dB 0.1 dB または 0.5 dB ステップ	0.267 ~ 69.249 (96 ポイント)

フィルタ種類	カットオフ周波数	Q
HPF(6 dB) LPF(6 dB)	20 Hz~20 kHz 1/24 オクターブバンド	—
HPF(12 dB) LPF(12 dB)	または 連続可変型(有効数字 3 桁)	0.500 ~ 2.563 (51 ポイント)

付属機能 : バンドバイパス機能、バイパスオール機能
 振幅周波数特性グラフ表示

グラフィックイコライザ(GEQ)

調整バンド数 : 10 バンド

フィルタ種類	中心周波数	ブースト/カット	Q
Peaking (ピーキング)	20 Hz～20 kHz 1/3 オクターブバンド 固定(31 バンド)	±12 dB 0.1 dB または 0.5 dB ステップ	0.267 ～ 69.249 (96 ポイント)

フィルタ種類	カットオフ周波数	Q
HPF(6 dB) LPF(6 dB)	20 Hz～20 kHz 1/24 オクターブバンド	—
HPF(12 dB) LPF(12 dB)	または 連続可変型(有効数字 3 桁)	0.500 ～ 2.563 (51 ポイント)

付属機能 : バンドバイパス機能、バイパスオール機能
振幅周波数特性グラフ表示

フィルタ(Filter)

調整バンド数 : 2 バンド、8 バンド、12 バンド

フィルタ種類	中心周波数	ブースト/カット	Q
Peaking (ピーキング)	20 Hz～20 kHz 1/24 オクターブバンド または 連続可変型(有効数字 3 桁)	±12 dB 0.1 dB または 0.5 dB ステップ	0.267 ～ 69.249 (96 ポイント)

フィルタ種類	カットオフ周波数	Q
HPF(6 dB) LPF(6 dB)	20 Hz～20 kHz 1/24 オクターブバンド	—
HPF(12 dB) LPF(12 dB)	または 連続可変型(有効数字 3 桁)	0.500 ～ 2.563 (51 ポイント)

フィルタ種類	ローloff周波数	ブースト/カット
High Shelving (ハイシェルビングフィルタ)	6 kHz～20 kHz 1/24 オクターブバンド または 連続可変型(有効数字 3 桁)	±12 dB 0.1 dB または 0.5 dB ステップ
Low Shelving (ローシェルビングフィルタ)	20 Hz～500 Hz 1/24 オクターブバンド または 連続可変型(有効数字 3 桁)	±12 dB 0.1 dB または 0.5 dB ステップ

フィルタ種類	位相反転周波数	Q
All Pass (オールパスフィルタ)	20 Hz～20 kHz 1/24 オクターブバンド または 連続可変型(有効数字 3 桁)	0.267 ～ 69.249 (96 ポイント)

フィルタ種類	位相反転周波数	Q
Notch (ノッチフィルタ)	20 Hz～20 kHz 1/24 オクターブバンド または 連続可変型(有効数字 3 桁)	8.65、 9.89、 11.54、 13.85、 17.31、 23.08、 34.62、 69.25

フィルタ種類	ブースト
Horn EQ (ホーンイコライザ)	0 ～ +18 dB 0.5 dB ステップ

付属機能 : バンドバイパス機能、バイパスオール機能
 振幅周波数特性グラフ表示

ディレイ(Delay)

遅延時間 : 0 ～ 682.6 ms (0.021 ms ステップ)
 付属機能 : 距離入力(メートル、フィート、インチ)

クロスオーバ(2way、3way、4way)

スロープ種類	カットオフ周波数	Q	Q2
Through	なし		
6 dB/oct	20 Hz～20 kHz		
12 dB/oct Bessel	連続可変型(有効数字 3 桁)	—	
12 dB/oct Butterworth			
12 dB/oct Linkwitz-Riley			
12 dB/oct Variable - Q		0.500 ～ 2.563 (51 ポイント)	—
18 dB/oct Bessel		—	
18 dB/oct Butterworth			
18 dB/oct Variable - Q		0.500 ～ 2.563 (51 ポイント)	
24 dB/oct Bessel			
24 dB/oct Butterworth		—	
24 dB/oct Linkwitz-Riley			
24 dB/oct Variable - Q		0.500 ～ 2.563 (51 ポイント)	0.500 ～ 2.563 (51 ポイント)

ゲイン : +12 dB ～ -60 dB、 $-\infty$ dB 0.5 dB ステップ、極性反転可
 デレイ : 最大 682.6 msec

レベル(Attn)

可変範囲 : 0 dB ～ -60 dB、 $-\infty$ dB 0.5 dB ステップ

ミュート(Mute)

各出力系統に配置

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NT は Microsoft Corporation の商標です。



TOA お客様相談センター	
商品の内容・組み合わせ・取り扱い方法や修理に関するご相談にお応えします。 受付時間 9:00 ~ 17:00 (土日、祝日除く)	フリーダイヤル 0120-108-117 ナビダイヤル 0570-064-475 (有料) FAX 0570-017-108 (有料) ※ PHS、IP 電話からはつながりません。

商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、およびカタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。

TOA ホームページ <http://www.toa.co.jp/>

133-12-711-7E